

FLOWER SHOP (草土出版発行月刊誌)

2003年8月号



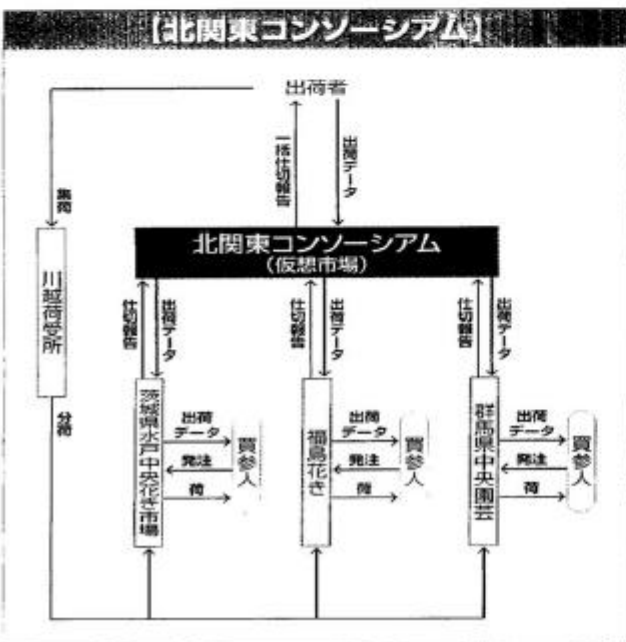
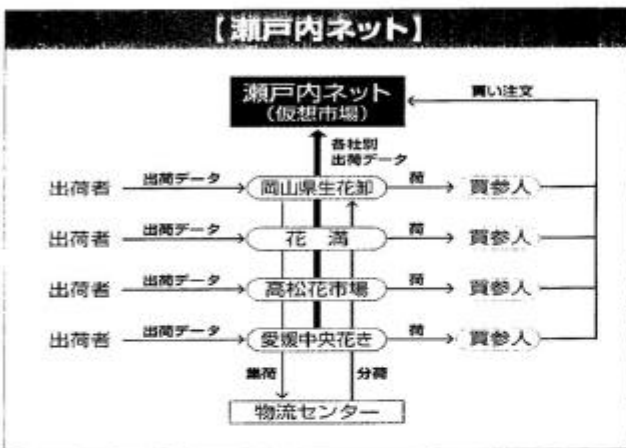
特集 花のWEB取引新時代



中国・四国の中央卸売市場4社が連携 瀬戸内ネット

瀬戸内ネット (http://seichuinside.net) は、中国・四国の中央卸売市場で営業する岡山県生花卸、花満、高松花市場、愛媛中央花きの連携からなるインターネット上の仮想市場。本プロジェクトは農水省の2002年度食品流通高度化プロジェクト事業として補助金を得、試用期間を経た後、今年6月にスタートしたばかり。取引は月・水・金の週3回、参加するためには出荷者・買参人ともにIDの登録が必要となる。

さて、取引の流れだが、出荷者より取引を日2日前の正午までに送られてきた出荷データを受け、取引先卸は出荷データと数量、単価の設定を行い、同日午後3時までにホームページ上に掲示する。各社の出荷データが整った時点でネット上での取引が開始。各社の買参人はパスワードを入力し、取引情報を得、取引日の前日午後6時まで、売買に参加することができる。ネット上に上場された商品は、取引先卸以外の卸が上場したものでも購入可能ということで、買参人は品揃えの充実が、また出荷者は販売先拡大といったメリットがのぞめる。ネット上で取引された商品の受渡しは通常仕入れの



荷と同時に受取ることができ、決済に関しては取引先卸との間で行われる。
初の取引日となった6月2日は、システム整備の整った花満と岡山県生花卸が取引を開始。当時は切花のみの取引となる。初取引日のアクセス件数は約30件。少し遅れての参加となる愛媛中央花き、高松花市場が加われば集荷・販売も倍増、隣接する関西の大手卸との競合体制も整うはずだ。花満切花部部長中村潤一さんは「市場によって得意・不得意がある。集荷情報を共有することでその格差をうめ、かつ、個性の交換も可能になると思う。買参人にも上手く利用していただきたい」と語った。また、8月まではお試し期間として無料で利用できるところ(ID発行のための初期費用は必要)、県域を越えた地方卸売業者が協力し、一つの仮想市場において取引を行うのは国内初の試みであるだけに、業界再編へと進むことができると今後の動きに注目・期待が集まる。

北関東および東北南部の拠点市場3社が連携 北関東コンソーシアム (2003年秋より始動)

北関東コンソーシアム(正式名称:関東地域花き卸売市場「卸売市場間ネットワークシステム事業」推進協議会)も瀬戸内ネット同様、農水省の2002年度食品流通高度化プロジェクト事業として計画されたプロジェクトだ。群馬県中央園芸、福島花き、茨城県水戸中央花き市場の3社が連携し、地方市場の集荷力の低下に歯止めをかけることを目的にインターネット上に仮想市場を設ける。

また、いま避けがたい状況となったクオリティの高い地物の流出に際しても、地域内流通を強化させることで地物の優良生産者の困り込みおよび商品の付加価値向上を狙う。プロジェクト推進協議会会長を務める群馬県中央園芸代

表取締役社長・相馬正一さんは「本プロジェクトを稼働させることによって、各県の生産物をより自由に販売し、横の輸送ルートの確立を目指すし、地域の活性化を図りたい」と語る。

仮想市場上では、現在各社別に登録している買参人を対象に取引を行う。ウェブ上で産地情報を共有することで相互の買参人の供給体制強化が可能となる。取扱い品目も市場上場品目全てを予定しており、市場は集荷力の安定を、買参人もこれまで以上の品揃えの充実が可能となり、販売力の強化に期待が高まる。

物流に関しては、産地から共同荷受所への一括入荷。そこから各市場への配送となる。稼働当初は、共同荷受所として埼玉県・川越荷受所を利用し、当時は既存の荷受ターミナルを利用することでコスト削減をはかるとのことだ。

稼働に先立って、利用参加者ための説明会が9月下旬に予定されている。本格的な稼働は9月末から10月初頭となる模様だ。